



世紀東急工業株式会社

2025年3月期第2四半期（中間期）

# 決算説明会

2024年11月29日

「真に強靱な企業グループへ」





# 目次

## 1 2025年3月期第2四半期 決算概要

2025年3月期第2四半期の事業環境	4
決算概要（連結・単体）	5
受注高・売上高・繰越高（連結）	6
工事受注実績（単体）	7
製品の製造・販売実績（単体）	8
セグメント別売上高・損益実績（連結）	9
販管費・営業利益・経常利益・中間純利益（連結）	10
中間純利益の増減要因分析（連結）	11
連結財政状態・連結キャッシュフロー	12
主な手持工事（受注工事・繰越工事）	13
主な完成工事	14
トピックス	15

## 2 2025年3月期の通期見通し

2025年3月期業績予想（連結・単体）	17
セグメント別売上高・損益予想（連結）	19
工事受注予想（連結・単体）	20

## 3 ご参考 中期経営計画（2024-2026年度）

中期経営計画（2024-2026年度）の概要	22
主要経営指標〔連結〕（計画最終年度）	24
個別戦略・重点施策	25
財務資本戦略（投資計画、財務計画、株主還元）	29
2030年のあるべき姿（財務目標等の更新）	32

## 4 参考情報

企業理念・会社概要	36
主な事業所・研究所・連結子会社等	37
技術紹介	38
連結経営指標等	39



1

# 2025年3月期第2四半期 決算概要



- 道路建設市場は、防災・減災事業やインフラ老朽化への対策が進められるなど、公共建設投資は底堅く推移。
- 国際情勢の緊迫化等により、資源・エネルギー価格の高値が継続。特に舗装資材製造販売事業では、コスト上昇により収益が圧迫される状況が続き、損益面では、依然厳しい事業環境。



## 中期経営計画（2024-2026年度）の各種施策を推進

- 1 本業のさらなる競争力強化による安定収益の拡大
- 2 事業領域の拡大、新たな事業分野開拓への挑戦
- 3 人材の「採用・定着・育成」における好循環の創出
- 4 生産性向上に資する新しい働き方の確立
- 5 強靱で健全な経営・財務基盤の構築

 将来のどのような環境変化にも対応できる「真に強靱な企業グループへ」

# 1 決算概要（連結・単体）

- 連結・単体とも、前年同期との比較では増収増益も、期首計画には未達。
- 2022年3月期2Q・2021年3月期2Qの営業利益（連結）は、それぞれ1,753百万円、2,236百万円であり、依然厳しい状況が続く。

（単位：百万円）

連結	2024年3月期 2Q実績	2025年3月期 2Q実績	対前年 増減	増減率	2025年3月期2Q 期首計画 (5/8公表ベース)	差異	増減率
売上高	39,634	44,682	5,048	12.7%	47,400	▲2,718	▲5.7%
売上総利益	3,984	4,470	486	12.2%	4,810	▲340	▲7.1%
営業利益	993	1,509	516	52.0%	1,700	▲191	▲11.2%
経常利益	1,007	1,464	457	45.4%	1,680	▲216	▲12.9%
中間純利益	861	935	74	8.6%	1,080	▲145	▲13.4%

単体	2024年3月期 2Q実績	2025年3月期 2Q実績	対前年 増減	増減率	2025年3月期2Q 期首計画 (5/8公表ベース)	差異	増減率
売上高	37,899	42,707	4,807	12.7%	45,000	▲2,293	▲5.1%
売上総利益	3,578	4,038	459	12.8%	4,350	▲312	▲7.2%
営業利益	916	1,375	459	50.2%	1,540	▲165	▲10.7%
経常利益	939	1,356	416	44.3%	1,510	▲154	▲10.2%
中間純利益	854	888	33	3.9%	980	▲92	▲9.4%

# ① 受注高・売上高・繰越高（連結）

- 受注高合計および工事受注高は、対前年同期比、対期首計画比とも減少。  
ただし、前年・前々年は2年続けて過去10年の最高値を更新。当第2四半期も引き続き堅調に推移。
- 製品売上高は、販売価格の上昇により前年同期比では増加。
- 完成工事高は増加。繰越工事高は前年同期を下回るも、なお高水準を維持。

(単位：百万円)

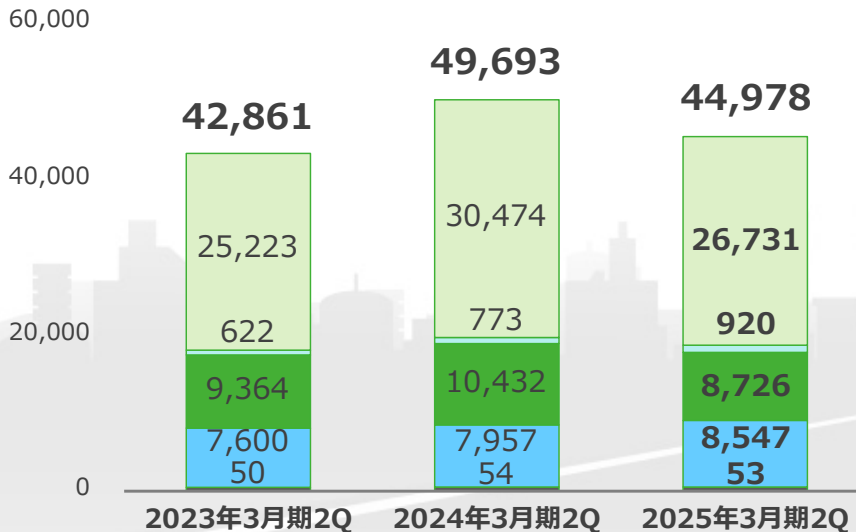
受注高の推移	2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	2025年3月期2Q		対前年 増減	増減率	2025年3月期 2Q期首計画 (5/8公表ベース)	差異	増減率
	金額	金額	金額	構成比率					
建設事業	35,210	41,680	36,378	80.9%	▲5,302	▲12.7%	38,900	▲2,522	▲6.5%
アスファルト舗装	25,223	30,474	26,731	59.4%	▲3,743	▲12.3%	—	—	—
コンクリート舗装	622	773	920	2.1%	147	19.0%	—	—	—
土木工事等	9,364	10,432	8,726	19.4%	▲1,706	▲16.4%	—	—	—
舗装資材製造販売事業	7,600	7,957	8,547	19.0%	589	7.4%	8,900	▲353	▲4.0%
売電事業等	50	54	53	0.1%	▲1	▲2.4%	100	▲47	▲47.0%
受注高合計	42,861	49,693	44,978	100.0%	▲4,714	▲9.5%	47,900	▲2,922	▲6.1%

(単位：百万円)

## 受注高

■ アスファルト舗装
 ■ コンクリート舗装
 ■ 土木工事等
 ■ 舗装資材製造販売事業
 ■ 売電事業等

(単位：百万円)



## 売上高の推移

	2023年3月期2Q	2024年3月期2Q	2025年3月期2Q
建設事業	34,241	31,621	36,082
アスファルト舗装	26,203	23,356	25,757
コンクリート舗装	428	450	654
土木工事等	7,609	7,814	9,669
舗装資材製造販売事業	7,600	7,957	8,547
売電事業等	50	54	53
合計	41,892	39,634	44,682

(単位：百万円)

## 繰越高の推移

	2023年3月期2Q	2024年3月期2Q	2025年3月期2Q
建設事業	37,507	46,443	44,558
アスファルト舗装	25,215	29,535	28,519
コンクリート舗装	520	1,058	871
土木工事等	11,772	15,849	15,167
合計	37,507	46,443	44,558

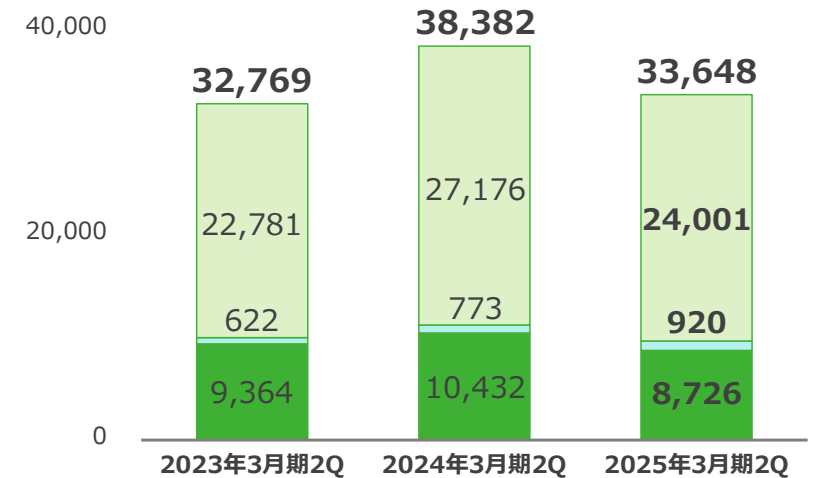
# ① 工事受注実績（単体）

- 工事の発注動向は底堅く、受注環境は総じて堅調に推移。
- 前年同期は、高速道路関連など複数の大型工事受注が寄与。当第2四半期は大型工事の受注少なく、官公庁発注工事の受注高は反動減。
- 注力する民間工事の受注は順調に伸長。工事受注全体では期首計画の年間受注高720億円に対し、46.7%の進捗。

(単位：百万円)

工種別受注高	2023年 3月期2Q	2024年 3月期2Q	2025年 3月期2Q	対前年 増減	増減率
アスファルト 舗装	22,781	27,176	24,001	▲3,174	▲11.7%
コンクリート 舗装	622	773	920	147	19.0%
土木工事等	9,364	10,432	8,726	▲1,706	▲16.4%
合計	32,769	38,382	33,648	▲4,733	▲12.3%

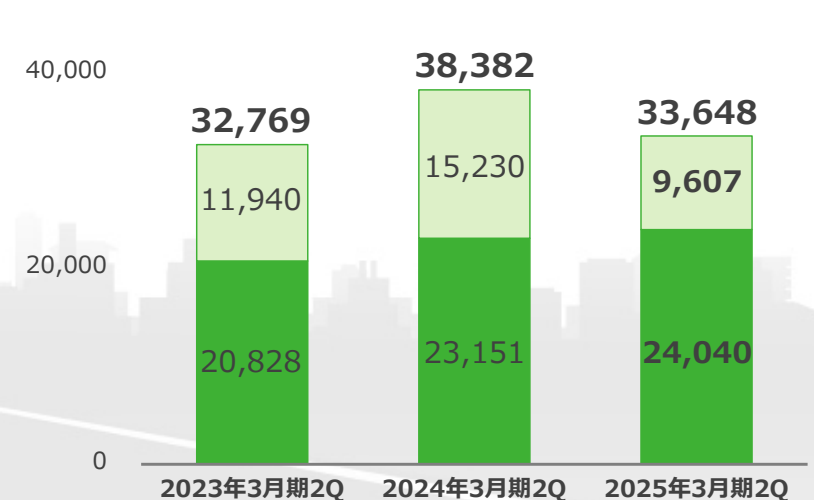
(単位：百万円) □アスファルト舗装 □コンクリート舗装 ■土木工事等



(単位：百万円)

官民別受注高	2023年 3月期2Q	2024年 3月期2Q	2025年 3月期2Q	対前年 増減	増減率
官公庁	11,940	15,230	9,607	▲5,622	▲36.9%
民間	20,828	23,151	24,040	888	3.8%
うち 東急グループ	1,663	723	933	209	29.0%
合計	32,769	38,382	33,648	▲4,733	▲12.3%

(単位：百万円) □官公庁 ■民間



# ① 製品の製造・販売実績（単体）

- 製品需要が低調に推移するなか、天候不順の影響もあり、アスファルト合材の生産数量・売上数量は、前年同期の実績には届かず。
- 製造コスト上昇を受けた値上げ活動の成果が、一部販売価格に反映されたことに加え、再生事業の売上増により、製品売上高は、前年同期比8.0%の増加。

（単位：百万円）

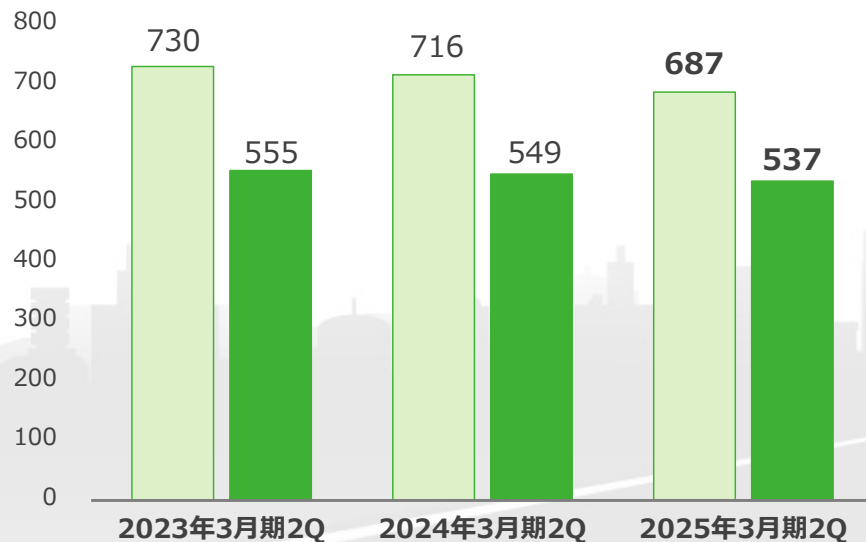
		2023年3月期2Q	2024年3月期2Q	2025年3月期2Q	対前年増減	増減率
アスファルト 合材	生産数量（千t）	730	716	687	▲28	▲4.0%
	売上数量（千t）	555	549	537	▲11	▲2.1%
	売上金額	5,448	5,744	5,884	140	2.4%
その他製品売上金額		2,228	2,380	2,889	509	21.4%
売上高合計		7,677	8,124	8,774	650	8.0%

（注）1.アスファルト合材の生産数量と売上数量との差異は、当社の請負工事に使用した数量です。  
2.その他製品売上金額は、アスファルト乳剤、砕石等の販売による売上高です。

## 生産数量・売上数量実績

□生産数量 ■売上数量

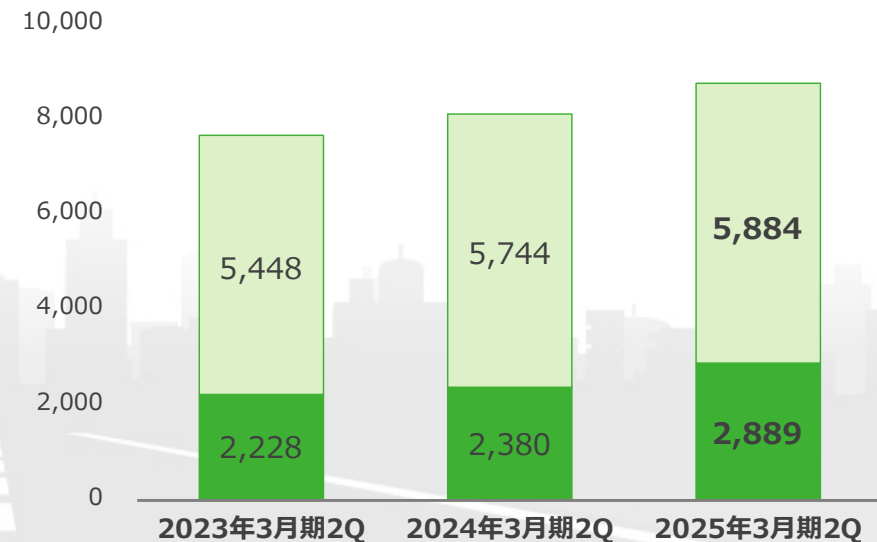
（単位：千t）



## 売上高

□アスファルト合材 ■その他

（単位：百万円）





# ① セグメント別売上高・損益実績（連結）

- 建設事業では、前期に受注した大型工事の施工進捗により、完成工事高は増加。完成工事高の伸長に伴いセグメント利益も改善。
- 舗装資材製造販売事業では、変動費の上昇が販売価格の上昇幅を上回る状況が続き、利益率、利益額とも前年同期を下回った。

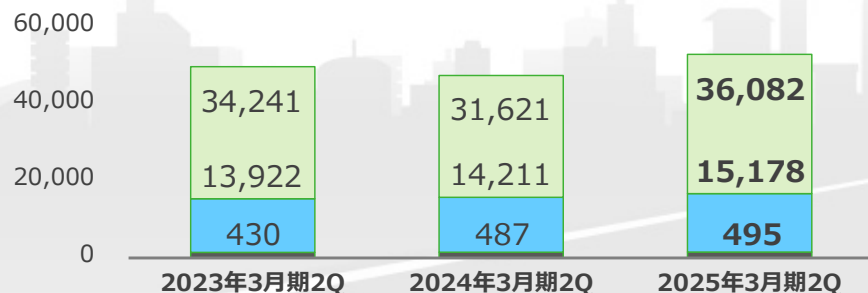
（単位：百万円）

売上高	2023年3月期2Q	2024年3月期2Q	2025年3月期2Q	対前年増減	増減率
建設事業	34,241	31,621	36,082	4,460	14.1%
舗装資材製造販売事業	13,922	14,211	15,178	967	6.8%
売電事業等	430	487	495	7	1.6%
調整額	▲6,702	▲6,686	▲7,073	▲387	—
売上高合計	41,892	39,634	44,682	5,048	12.7%

営業利益	2023年3月期2Q	2024年3月期2Q	2025年3月期2Q	対前年増減	増減率
建設事業	2,033	1,924	2,924	1,000	52.0%
舗装資材製造販売事業	▲32	733	285	▲448	▲61.1%
売電事業等	82	96	91	▲4	▲5.2%
調整額	▲1,837	▲1,761	▲1,791	▲30	—
営業利益合計	246	993	1,509	516	52.0%

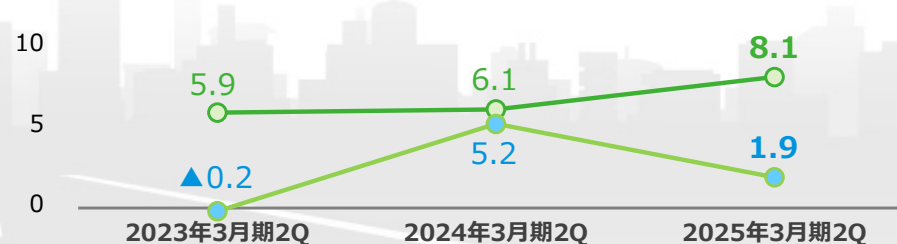
## 売上高

（単位：百万円） □建設事業 □舗装資材製造販売事業 ■売電事業等



## 営業利益率

（単位：%） ○建設事業利益率 ●舗装資材製造販売事業利益率



# 1 販管費・営業利益・経常利益・中間純利益（連結）

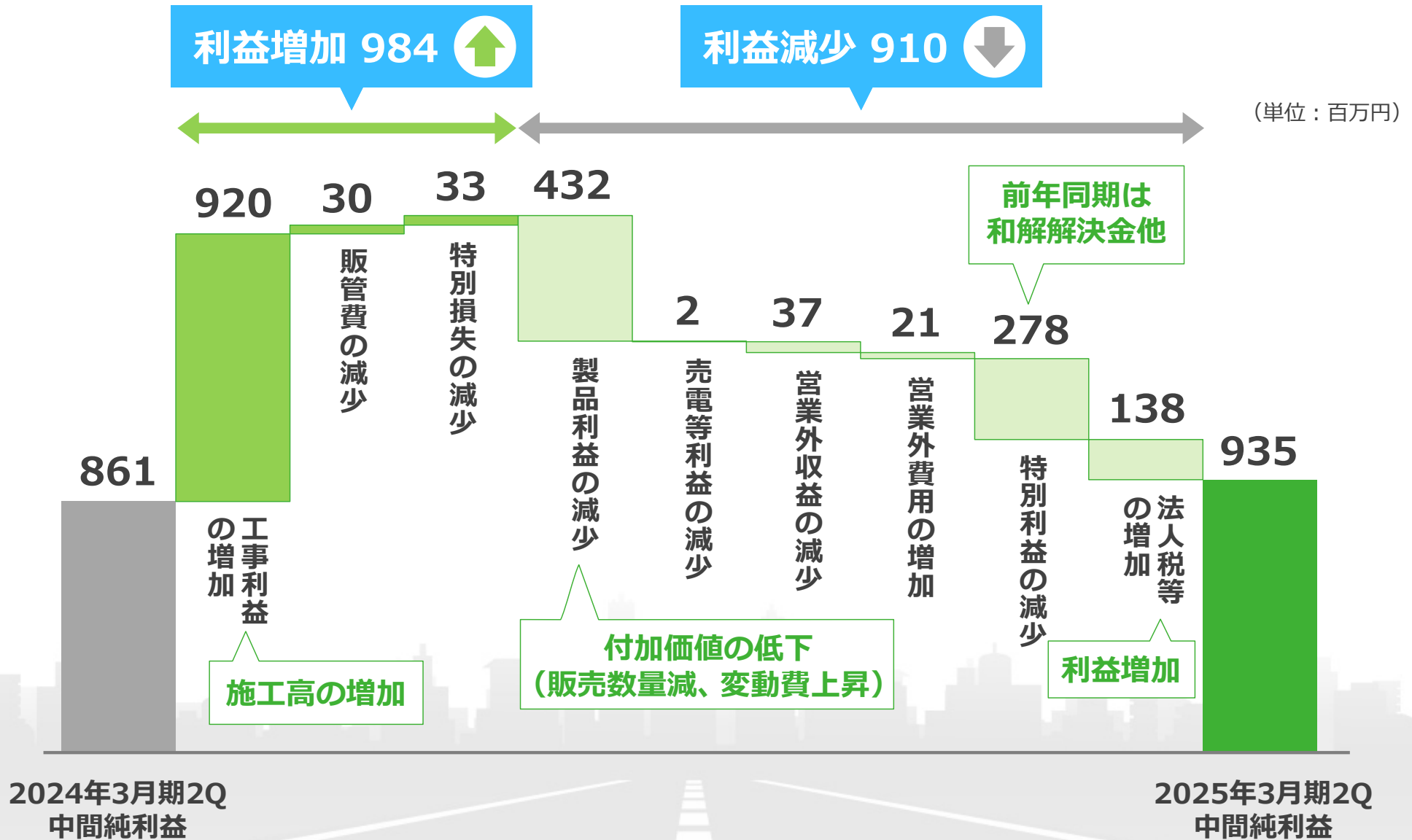
- 前年同期は、株主代表訴訟の和解解決金受領、過去の独占禁止法違反に関連し見込んでいた工事請負契約に係る違約金の時効による戻入等により、286百万円の特別利益を計上。
- 損益面では2年連続の増益となったが、それ以前との比較では、なお厳しい状況が続く。

(単位：百万円)

	2023年3月期2Q		2024年3月期2Q		2025年3月期2Q		対前年 増減	増減率
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率		
売上高	41,892	100.0%	39,634	100.0%	44,682	100.0%	5,048	12.7%
売上総利益	3,332	8.0%	3,984	10.1%	4,470	10.0%	486	12.2%
販売費及び一般管理費	3,086	7.4%	2,991	7.5%	2,961	6.6%	▲30	▲1.0%
営業利益	246	0.6%	993	2.5%	1,509	3.4%	516	52.0%
営業外収益	71	0.2%	65	0.2%	28	0.1%	▲37	▲57.1%
営業外費用	71	0.2%	51	0.1%	73	0.2%	21	41.5%
経常利益	246	0.6%	1,007	2.5%	1,464	3.3%	457	45.4%
特別利益	2	0.0%	286	0.7%	8	0.0%	▲278	▲97.2%
特別損失	20	0.0%	55	0.1%	21	0.0%	▲33	▲61.6%
税金等調整前中間純利益	228	0.5%	1,238	3.1%	1,451	3.2%	212	17.2%
法人税等	137	0.3%	377	1.0%	516	1.2%	138	36.6%
中間純利益	90	0.2%	861	2.2%	935	2.1%	74	8.6%

# ① 中間純利益の増減要因分析（連結）

- 製品利益は再び減少に転じる厳しい状況となったが、工事利益の改善などにより、中間純利益は、前年同期実績を上回る水準を確保。



# ① 連結財政状態・連結キャッシュフロー

- 配当金支払による支出1,637百万円。
- 工場の設備更新、事務所建替えなど有形固定資産の取得による支出591百万円。

## 連結財政状態

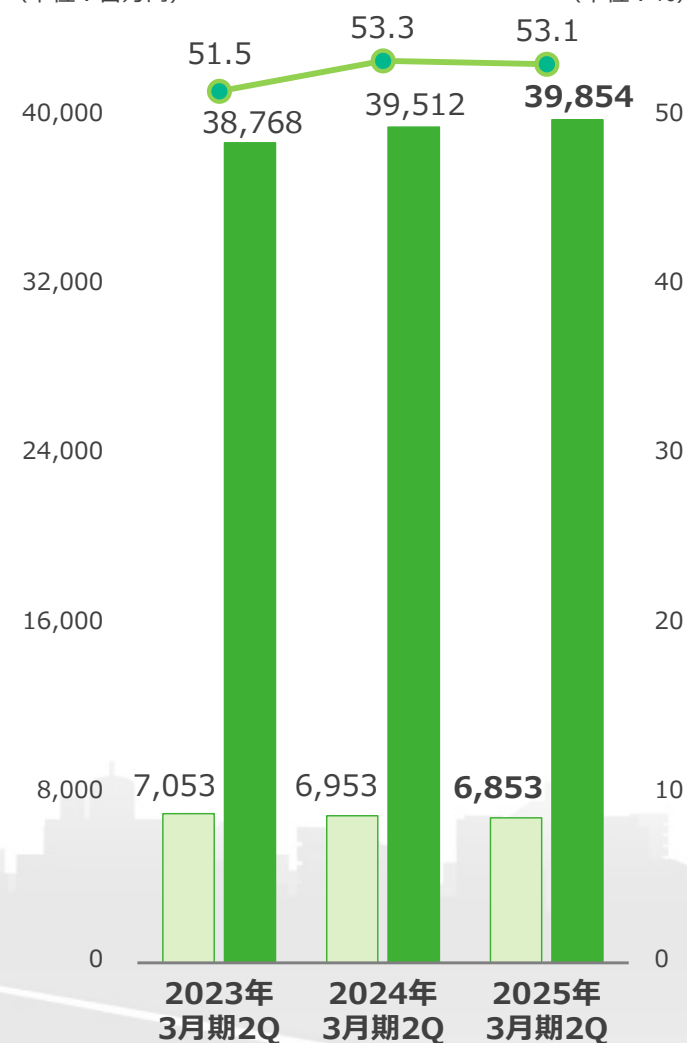
(単位：百万円)

	2023年 3月期2Q	2024年 3月期2Q	2025年 3月期2Q	対前年増減
資産合計	75,289	74,085	75,004	919
負債合計	36,520	34,572	35,150	577
有利子負債	7,053	6,953	6,853	▲100
(短期借入金)	203	203	203	—
(長期借入金)	6,850	6,750	6,650	▲100
純資産	38,768	39,512	39,854	341
自己資本比率	51.5%	53.3%	53.1%	—

□有利子負債 ■純資産 ●自己資本比率

(単位：百万円)

(単位：%)



## 連結キャッシュフロー

(単位：百万円)

	2023年 3月期2Q	2024年 3月期2Q	2025年 3月期2Q
営業活動によるCF	5,475	10,868	2,882
投資活動によるCF	▲2,909	▲2,082	▲608
財務活動によるCF	▲1,874	▲1,043	▲1,590
現金及び現金同等物に係る換算差額	57	13	▲3
現金及び現金同等物の増減額	748	7,756	679
現金及び現金同等物の期末残高	13,562	15,929	14,119

# ① 主な手持工事（受注工事・繰越工事）

## ● 受注工事

発注者	工事名	工事場所
東急電鉄株式会社	ホームと車両の隙間・段差に関する工事（バリアフリー対応） （その1）	東京都
国土交通省北陸地方整備局	R 6 能登国道維持舗装復旧その1 工事	石川県
名古屋高速道路公社	令和6年度高速16号一宮線舗装改築工事（第3工区）	愛知県
国土交通省中国地方整備局	令和6年度玉島北部保守工事	岡山県
福岡国際空港株式会社	福岡空港国内線西側構内道路整備工事	福岡県

## ● 前期からの繰越工事

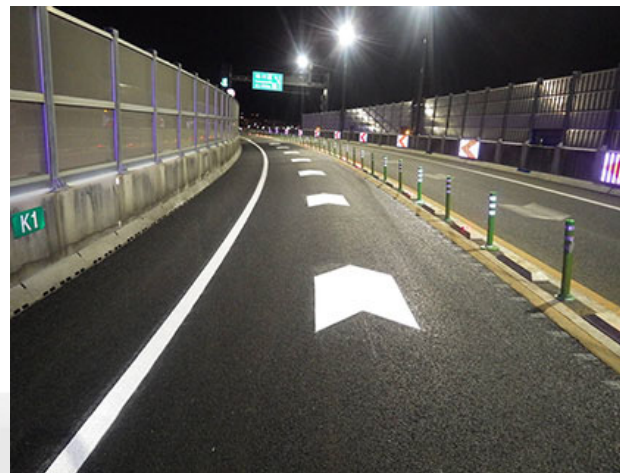
発注者	工事名	工事場所
宮城県	宮城県総合運動公園スタジアム等公認更新整備工事	宮城県
東日本高速道路株式会社	小名浜道路山田舗装工事	福島県
中日本高速道路株式会社	東海環状自動車道北勢IC～大安IC間舗装工事	三重県
阪神高速道路株式会社	舗装補修大規模修繕工事(2023-4-湾)	大阪府
西日本高速道路株式会社	令和5年度隼人道路隼人東舗装工事	鹿児島県

# ① 主な完成工事

発注者	工事名	工事場所
日本中央競馬会	中山競馬場芝馬場 1 コーナー路盤改造及び芝馬場芝張替工事	千葉県
国土交通省関東地方整備局	R 4 国道 4 号下谷 (2) 電線共同溝路面復旧その3 工事	東京都
国土交通省関東地方整備局	R 4 国道 1 3 8 号新屋拡幅電線共同溝他工事	山梨県
西日本高速道路株式会社	京都高速道路事務所管内舗装補修工事(令和4年度)	京都府
阪神高速道路株式会社	舗装補修大規模修繕工事(2022-1-北)	兵庫県



中山競馬場芝馬場 1 コーナー路盤改造  
及び芝馬場張替工事



京都高速道路事務所管内  
舗装補修工事(令和4年度)



舗装補修大規模修繕工事  
(2022-1-北)

## 自然災害からの復旧支援

### ● 能登半島地震

#### 能登復興事務所の設置

令和 6 年能登半島地震の復興事業に建設事業者として積極的に貢献していくため、2024年8月、現場工事の最前線の事務所として、石川県七尾市内に開設。

#### 能登アスコン(株)とJV組成

関連会社である能登アスコン(株)（石川県鳳珠郡穴水町）とともに、復旧・復興事業を支えていくため、2024年9月、アスファルト廃材やコンクリート廃材の受入れにも対応する同社のアスファルト合材プラント事業に、共同企業体の構成員として参画。

### ● 台風10号に伴う豪雨災害（国道246号新善波トンネル付近の法面崩落）

#### 災害概要

2024年8月30日（金）台風10号に伴う豪雨により、国道 246 号の新善波トンネル（神奈川県伊勢原市善波地先）の厚木側坑口付近で土砂崩落が発生。  
道路全面に土砂が流入し、通行止め。

#### 当社の対応

発災当日夜間より、土砂撤去・路面舗装 等に従事し、早期の交通開放に協力。

※発災から通行止め解除までの経緯は、国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所様のホームページでご確認いただけます。



## ② 2025年3月期の通期見通し





## ② 2025年3月期業績予想（連結・単体）

- 道路建設市場は、防災・減災事業や国土強靱化等、引き続き、底堅い需要見込む。
- 第2四半期の業績を勘案し、各予想数値は、連結・単体とも期首計画を据え置き。
- 現時点の予想に際し、地政学的リスク等による、急激な収益環境の悪化は織り込んでいない。

（単位：百万円）

連結	2024年3月期	2025年3月期 (予想)	対前年増減	増減率
受注高	95,914	97,300	1,386	1.4%
売上高	88,037	96,900	8,863	10.1%
売上総利益	9,946	11,610	1,664	16.7%
営業利益	4,091	5,520	1,429	34.9%
経常利益	4,078	5,450	1,372	33.6%
当期純利益	2,740	3,700	960	35.0%

2025年3月期 期首計画 (5/8公表ベース)	差異	増減率
97,300	—	—
96,900	—	—
11,610	—	—
5,520	—	—
5,450	—	—
3,700	—	—

単体	2024年3月期	2025年3月期 (予想)	対前年増減	増減率
受注高	91,176	91,600	424	0.5%
売上高	83,705	91,600	7,895	9.4%
売上総利益	8,986	10,450	1,464	16.3%
営業利益	3,778	4,950	1,172	31.0%
経常利益	3,782	4,870	1,088	28.8%
当期純利益	2,087	3,340	1,253	60.0%

2025年3月期 期首計画 (5/8公表ベース)	差異	増減率
91,600	—	—
91,600	—	—
10,450	—	—
4,950	—	—
4,870	—	—
3,340	—	—

# ② 2025年3月期業績予想（主要経営指標）

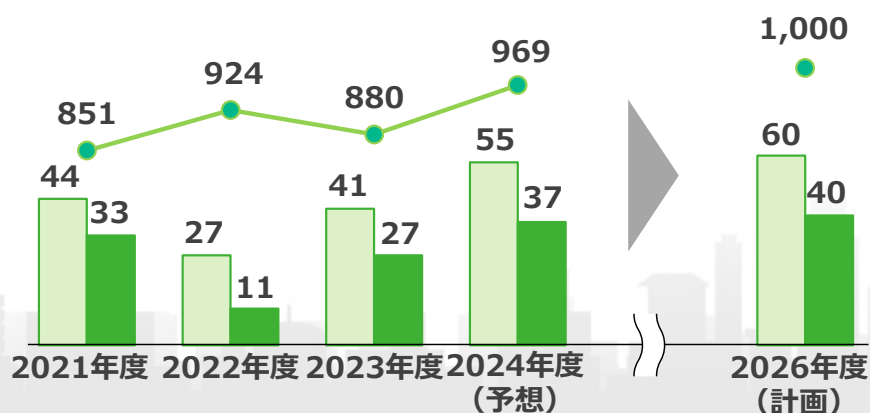
## 中期経営計画（2024-2026年度）主要経営指標 連結

項目	2023年度 実績	2024年度 予想	2026年度 計画
売上高	880億円	969億円	1,000億円
営業利益	41億円	55億円	60億円
当期純利益	27億円	37億円	40億円
ROE	6.8%	9.1%	9.5%
自己資本比率	53.3%	—	50%程度

### 売上高、営業利益、当期純利益

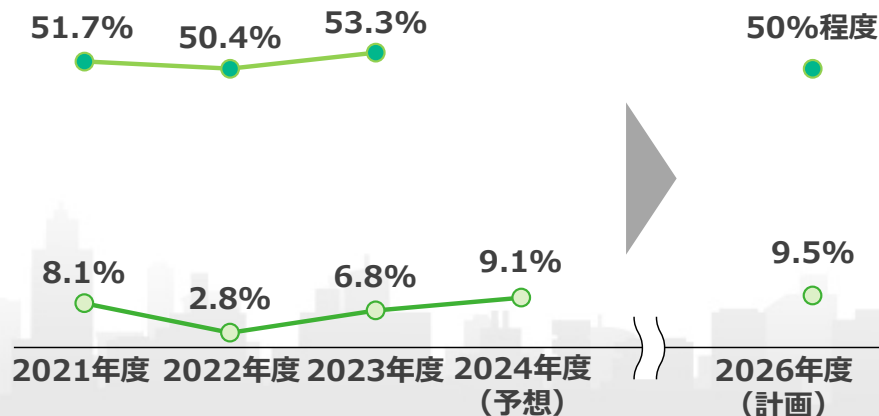
□ 営業利益 ■ 当期純利益 ● 売上高

(単位：億円)



### 自己資本比率、ROE

● 自己資本比率 ○ ROE



(注) 2024年度予想のROE算出に用いた2025年3月期末の自己資本額は、「前期末自己資本額」+「当期純利益予想額」-「期中配当額」+「譲渡制限付株式報酬としての自己株式処分による変動額」+「特別奨励金スキームによる自己株式処分による変動額(最大値)」で算出しており、その他の変動については考慮していない。

## ② セグメント別売上高・損益予想（連結）

- 建設事業は、豊富な手持工事高、底堅い受注環境を背景に、完成工事高は対前年比増を予想。資材価格や人件費の上昇懸念も、大型工事の施工進捗による生産性向上、利益の逸失防止徹底により、予想利益の確保見込む。
- 舗装資材製造販売事業は、引き続き、製造・運搬コストの上昇を反映した販売価格の実現、販売数量の確保、製造効率の向上に努め、利益の回復を目指す。

（単位：百万円）

売上高	2024年3月期	2025年3月期 （予想）	対前年増減	増減率
建設事業	70,311	77,540	7,229	10.3%
舗装資材製造販売事業	31,384	33,410	2,026	6.5%
売電事業等	953	950	▲3	▲0.3%
調整額	▲14,613	▲15,000	▲387	—
売上高合計	88,037	96,900	8,863	10.1%

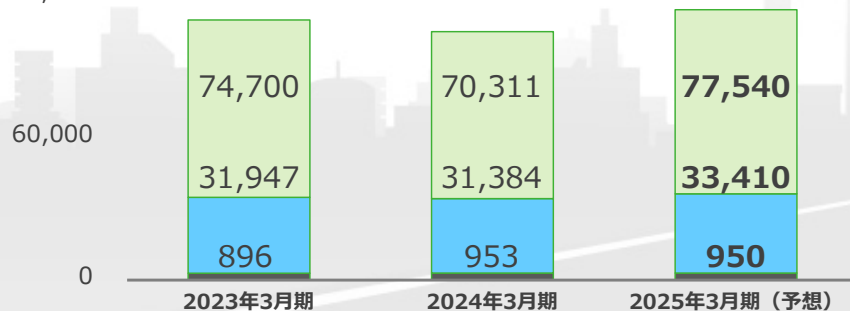
2025年3月期期首 計画（5/8公表ベース）	差異	増減率
77,540	—	—
33,410	—	—
950	—	—
▲15,000	—	—
96,900	—	—

営業利益	2024年3月期	2025年5月期（予想）		対前年増減	増減率
	金額	金額	利益率		
建設事業	5,563	6,885	8.9%	1,322	23.8%
舗装資材製造販売事業	1,841	2,115	6.3%	274	14.9%
売電事業等	172	170	17.9%	▲2	▲1.2%
調整額	▲3,486	▲3,650	—	▲164	—
営業利益合計	4,091	5,520	5.7%	1,429	34.9%

2025年3月期期首 計画（5/8公表ベース）	差異	増減率
6,750	135	2.0%
2,100	15	0.7%
170	—	—
▲3,500	▲150	—
5,520	—	—

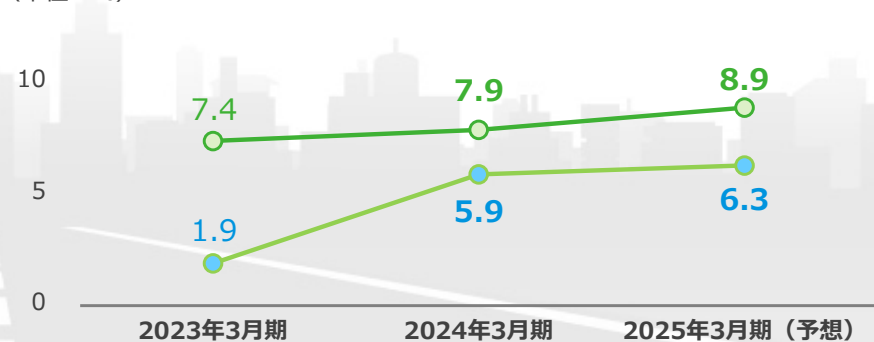
### 売上高

（単位：百万円）  
■ 建設事業 ■ 舗装資材製造販売事業 ■ 売電事業等



### 営業利益率

（単位：%）  
● 建設事業利益率 ● 舗装資材製造販売事業利益率



## ② 工事受注予想（連結・単体）

- 官公庁工事は、10月に首都圏中央連絡自動車道神崎大栄舗装工事（発注者：東日本高速道路株式会社）を受注。第3四半期以降における発注見通し、現在の施工体制も踏まえ、期首計画値の達成を見込む。
- 将来における公共工事の漸減傾向、中長期的な市場性を考慮し、引き続き民間工事の受注基盤強化に注力。
- 2030年度の新たな目標（単体工事受注780億円）に向け、競争力の底上げに取り組んでいく。

（単位：百万円）

連結	2024年3月期	2025年3月期 (予想)	対前年増減	増減率
工事受注合計	78,189	77,900	▲289	▲0.4%

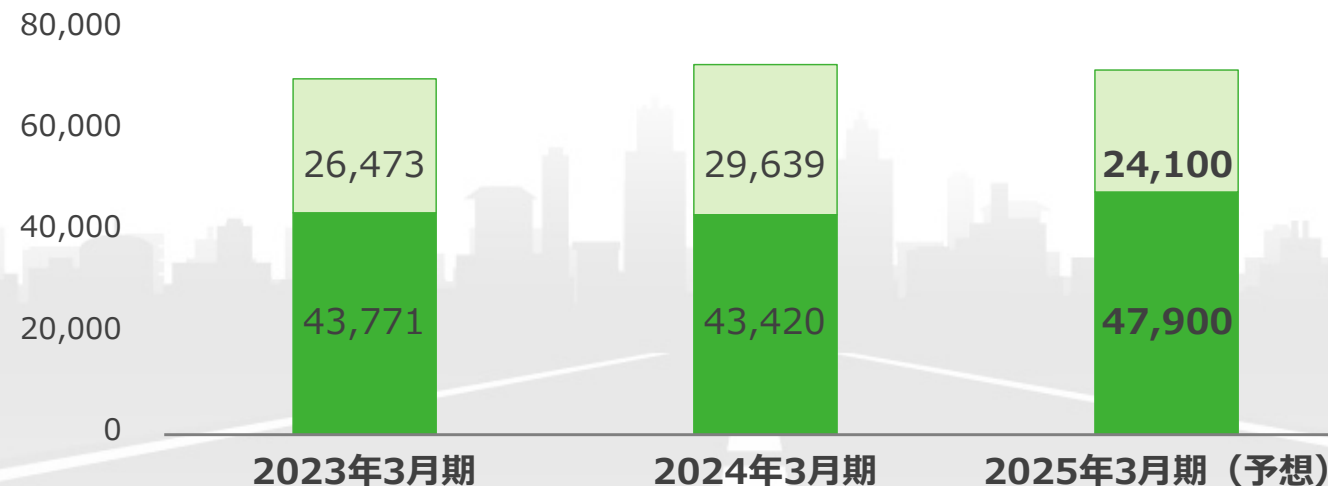
2025年3月期期首計画 (5/8公表ベース)	差異	増減率
77,900	—	—

単体	2024年3月期	2025年3月期 (予想)	対前年増減	増減率
官公庁	29,639	24,100	▲5,539	▲18.7%
民間	43,420	47,900	4,480	10.3%
うち東急グループ	1,634	2,450	816	49.9%
合計	73,060	72,000	▲1,060	▲1.5%

2025年3月期期首計画 (5/8公表ベース)	差異	増減率
22,000	2,100	9.5%
50,000	▲2,100	▲4.2%
2,600	▲150	▲5.8%
72,000	—	—

### 工事受注高（単体）の推移

（単位：百万円） □官公庁 ■民間





3

ご参考

中期経営計画（2024-2026年度）



企業理念

豊かな地域社会づくりに貢献する  
生活基盤創造企業

2030年の  
あるべき姿

人の成長と企業の成長を両立し  
持続可能な社会の実現に貢献  
する真に強靱な企業グループ

バックキャスト

3rd Phase

中期経営計画  
(2027-2029年度)

「2030年のあるべき姿」  
実現への総仕上げ  
(持続的な成長基盤の確立)

- 本業の持続的成長
- 将来の成長ドライバー育成
- サステナブル経営の深化

2nd Phase

中期経営計画  
(2024-2026年度)

「2030年のあるべき姿」実現に加速  
(成長を実現、持続的成長の種を仕込む)

- 本業の収益拡大、成長基盤確立
- 将来の成長ドライバー創出（獲得）
- サステナブル経営の推進

1st Phase

中期経営計画  
(2021-2023年度)

「2030年のあるべき姿」  
実現に向けた礎の構築

- 本業の収益基盤底上げ、成長への足固め
- 働き方改革の実行
- サステナブル経営実践への第一歩

## 基本方針

### 「真に強靱な企業グループへ」

2nd Phase

『2030年のあるべき姿』の実現に向けた5つの基本方針「安定収益の拡大」「収益源の多様化」「人を基軸とした経営の実践」「新しい働き方の確立」「経営・財務基盤の充実」に基づく取り組みを深化させ、“真に強靱な企業グループ” への変革を加速させる。

### 中期経営計画 (2024-2026年度)

P25  
~28

#### 個別戦略



01

本業のさらなる競争力強化による安定収益の拡大



02

事業領域の拡大、新たな事業分野開拓への挑戦



03

人材の「採用・定着・育成」における好循環の創出



04

生産性向上に資する新しい働き方の確立

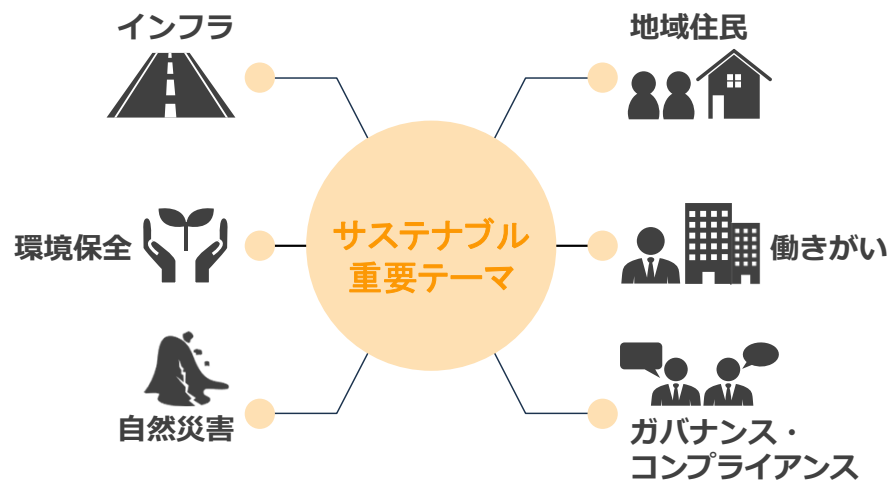


05

強靱で健全な経営・財務基盤の構築

#### サステナブル重要テーマへの取り組み

『2030年のあるべき姿』の実現に向け6つのマテリアリティを特定、マテリアリティと具体的な取り組み、貢献できるSDGs目標を体系化し、事業基盤の強靱化と社会課題解決への貢献を両輪で進めることで、サステナブル経営を推進する。



# ③ 中期経営計画 (2024-2026年度)

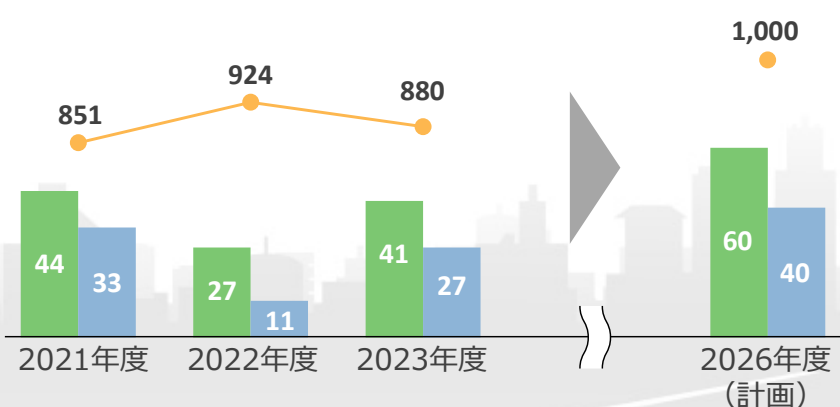
## 主要経営指標 連結

項目	2023年度 実績	2026年度 計画
売上高	880億円	1,000億円
営業利益	41億円	60億円
当期純利益	27億円	40億円
ROE	6.8%	9.5%
自己資本比率	53.3%	50%程度

### ■ 売上高、営業利益、当期純利益

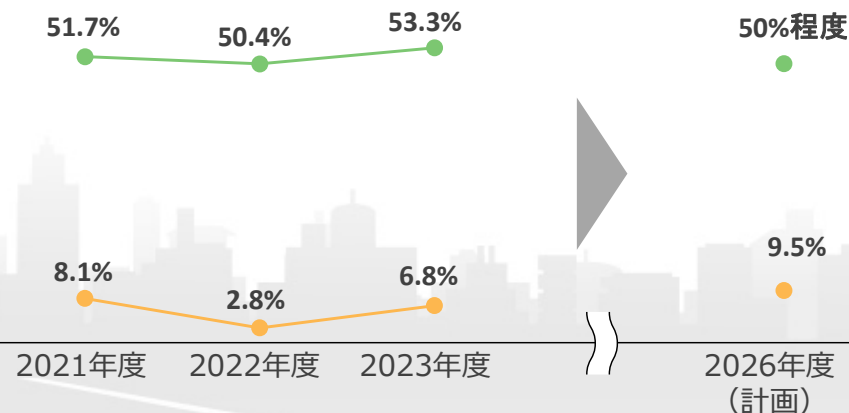
(単位：億円)

■ 営業利益 ■ 当期純利益 ● 売上高



### ■ 自己資本比率、ROE

● 自己資本比率 ● ROE





## 個別戦略



# 01

## 本業のさらなる競争力強化による安定収益の拡大

### 重点施策

#### 建設事業

- 施工実績の蓄積と対応体制の強化(国交省・高速道路会社発注工事)
- インフラ老朽化対策、防災・減災分野、再生可能エネルギー事業への営業展開強化



東海環状自動車道  
大野・神戸IC~大垣西IC間舗装工事



妙見島混合所リニューアル計画  
(完成予想パース)

#### 舗装資材製造販売事業

- 販売量確保に向けた地域戦略
- 低環境負荷商品の販売強化(常温合材販売の事業基盤強化)
- 優位性確保および環境対策を目的とした設備投資計画の実施

#### 技術開発

- 低炭素アスファルト混合物※によるCO<sub>2</sub>低減技術など社会環境の変化を見据えた技術開発および高度な技術提案

低炭素アスファルト関連技術 特許取得  
コンパインドフォームド(特許6216905)  
スタティックフォームド(特許6788138)

※(一般名称)フォームドアスファルト混合物

低炭素アスファルト混合物とは・・・



製造時の加熱温度を10~30℃低下  
(一般のアスファルト混合物製造時比較)

一般のアスファルト混合物  
製造時より

CO<sub>2</sub>排出量  
15%削減

※製造時の加熱温度を30℃低下させた場合

## 個別戦略



# 02

## 事業領域の拡大、新たな事業分野開拓への挑戦

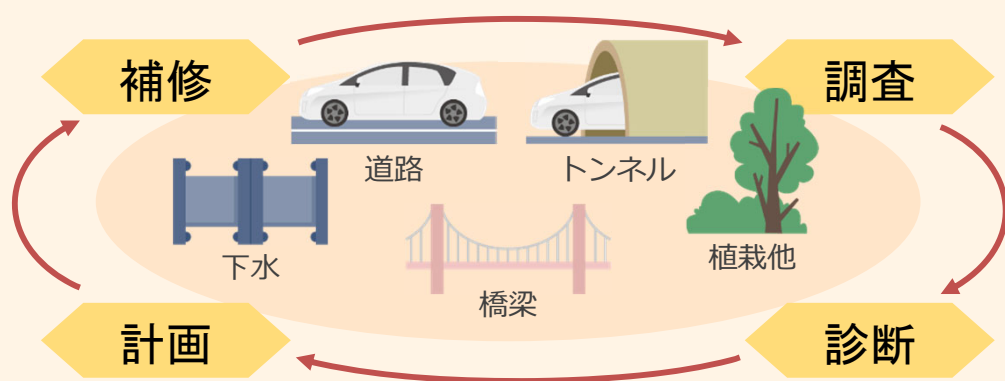
### 重点施策

#### 社会インフラ整備における新しい技術と価値の提供

- 道路インフラの長寿命化
- リサイクル技術等環境関連技術の拡充



R2国分寺出張所管内路面補修工事  
＜高強度アスファルト混合物「ストロングファルト」施工＞

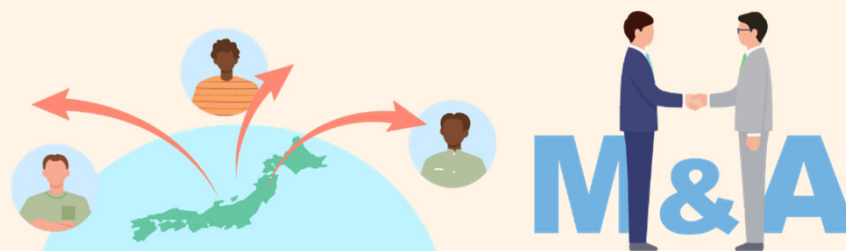


#### 道路等包括的民間委託への取り組み継続

- 発注者の抱える課題解決に向けた「事業モデル」の創出
- 道路の点検・診断技術等のブラッシュアップ

#### 海外事業展開を含めた事業領域の拡大

- 既存事業とのシナジーや事業領域・マーケットの拡大につながるM&A・提携等の推進
- 新たな事業分野開拓に向けた成長戦略の推進



## 個別戦略



# 03

## 人材の「採用・定着・育成」における好循環の創出

### 重点施策

#### 積極的なD&Iの推進・エンゲージメント向上

- ダイバーシティ採用の推進および教育機関との結びつき強化による採用体制の強化
- 働きやすく働きがいのある「魅力ある職場づくり」を推進することによるエンゲージメントの向上



女性向け多機能車両  
 <トイレ、パウダースペース等を完備>



多摩営業所所内(東京都日野市)  
 <2023年6月に建替更新>

	現状		2026年度目標	(参考) 2030年度目標
総合職における女性社員数	65名	⇒	<b>100名</b>	<b>140名</b>
管理職における女性社員数	4名	⇒	<b>5名</b>	<b>7名</b>
従業員エンゲージメントスコア	B	⇒	<b>BB以上</b>	<b>A以上</b>

※エンゲージメントスコア：外部専門機関が提供する調査サービスにおける評価で、DDからAAAまで全11段階で構成。2023年度11月実施時のスコア【B】は上位から6段階目、【BB】は5段階目、【A】は3段階目となる。



栃木トレーニングセンター(TTC)  
 <自社研修施設>



### 多様化する人材の能力向上

- 多様化する人材に応じた柔軟なキャリア形成の推進  
 および教育体系の充実化

## 個別戦略

### 04 生産性向上に資する新しい働き方の確立

#### 重点施策

#### 生産性の向上と業務効率化

- ICTの積極活用と業務のデジタル化および分業の加速



#### AI×人材 = 労働生産性向上

- 働き手を支え、働き方を変えるAIの導入
- 社内業務の軽減



### 05 強靱で健全な経営・財務基盤の構築

#### 重点施策

#### ステークホルダーからの信用・信頼の回復

- 独占禁止法違反再発防止策の完全実施、その他法令順守の徹底



#### コーポレートガバナンスの強化

- 非財務情報を含む情報開示のさらなる充実
- サステナブル経営の推進  
(マテリアリティへの取り組みの展開)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SCIENCE  
BASED  
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

## 財務資本戦略

### ■ 株価・資本コストを意識した経営の実践

ROE向上	収益力向上 (利益率改善・資産効率の向上)	資本コストを上回る収益性を確保する 事業戦略の遂行【P25-P28】
	成長戦略	設備投資、研究開発投資、M&A等に加え、 人材投資を推進【P25-P28】
	自己資本のコントロール (財務レバレッジ)	自己資本比率50%程度、 DEレシオ0.3以下を目安にマネジメント【P31・P34】
株主資本 コスト低減	サステナビリティ、 レジリエンスへの取り組み	マテリアリティに基づき 具体的な取り組みを推進【P23】
	経営の透明性	情報開示の充実、対話の継続等により、 株主・投資家、株式市場の理解につなげる

PBRの維持・向上に向け、株主資本コストを上回るROEを確保しつつ、さらなるエクイティ・スプレッドの拡大を目指す。



## 財務資本戦略

### ■ 株主還元方針

	従来の方針 「中期経営計画 (2021-2023年度)」	新たな方針 「中期経営計画 (2024-2026年度)」
配当の考え方	単年度の業績に連動	中長期的な安定配当
株主還元指標	配当性向30%程度・総還元性向50%以上 (当面の間、配当性向100%・DOE8%を目標)	DOE (純資産配当率) 6%を目標 ※2024年度はDOE8%の目標を継続 〔 但し、計画外の大規模な資金需要や 著しい環境変化が生じない限り 〕

#### 株主還元方針変更の趣旨

- ROEの維持・向上に向け、自己資本を積極的にコントロールする方針は堅持
- 原油価格変動など外部環境の影響や一時的な事由による損益インパクトと株主還元水準の相関性を緩和
- 中長期的に安定的・継続的な配当を透明性をもって行うため、DOEに一本化
- 2030年KPIの達成を目指すうえで、最も妥当なタイミング・内容と判断し、DOE目標を6%に変更

今後も、資本効率と財務健全性のバランスを重視しつつ充実した株主還元を継続し、中長期的な企業価値・株主価値の向上を目指してまいります。

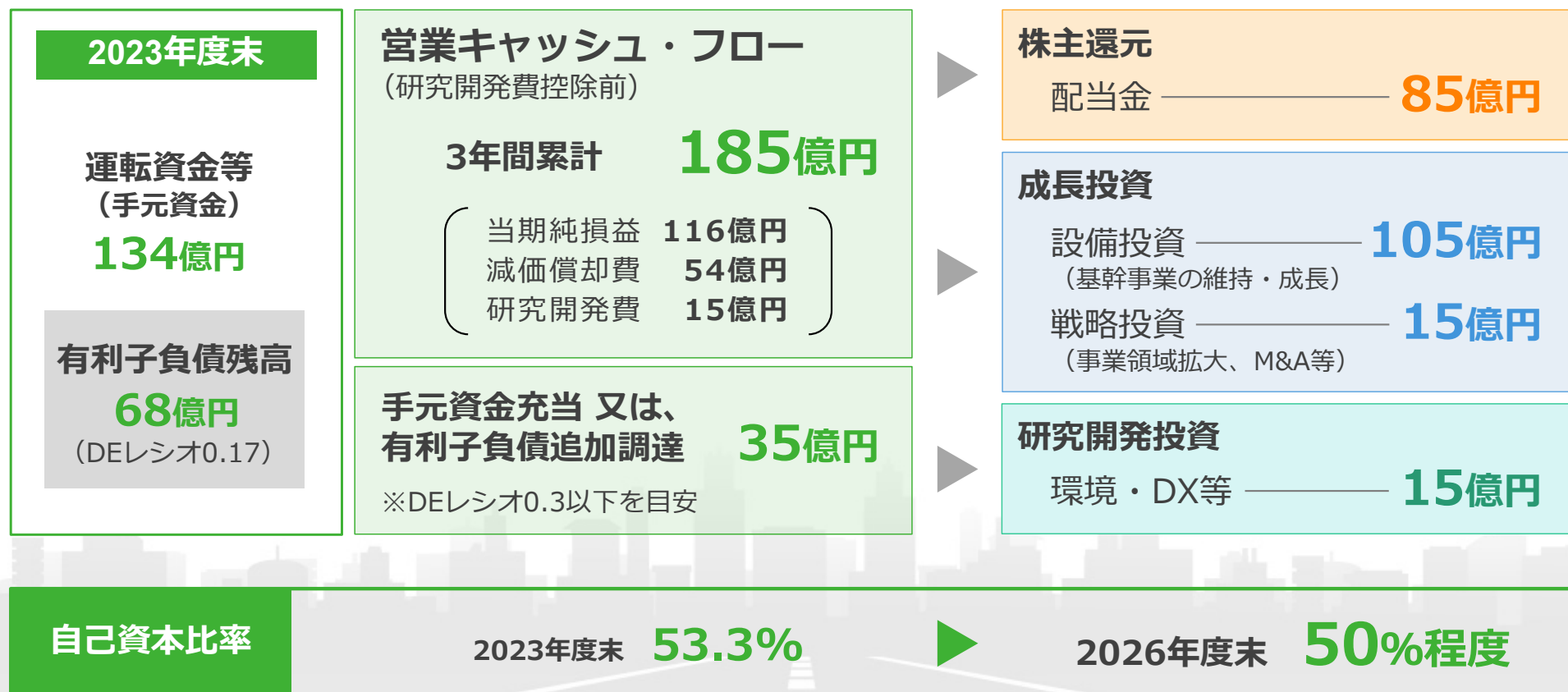
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (予想)
1株当たり 配当金の推移	30円 (うち、中間配当 ー)	30円 (うち、中間配当 ー)	90円 (うち、中間配当45円)	90円 (うち、中間配当45円)

# 3 中期経営計画 (2024-2026年度)

## 財務資本戦略

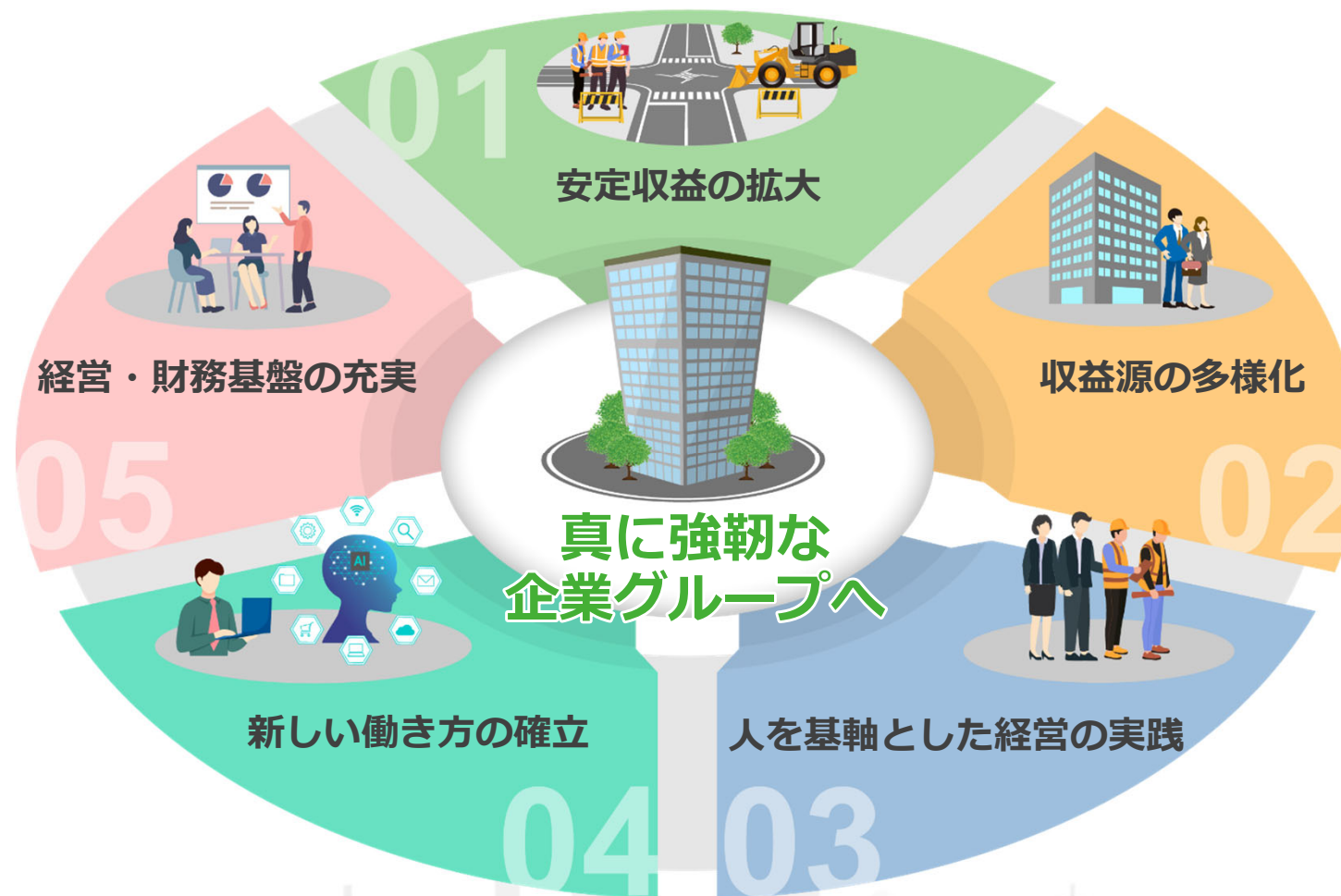
### ■ キャピタル・アロケーション (2024-2026年度)

- ・ 持続可能な事業基盤構築に向けた継続的・戦略的投資の実施
- ・ 財務健全性と資本効率のバランスに配慮したBSのコントロール
- ・ DOE基準による、安定的かつ積極的な株主還元



# 3 2030年のあるべき姿

## あるべき姿の実現に向けた基本方針



中期経営計画（3ヶ年計画）において、上記5つの基本方針に基づき、個別戦略・重点施策を策定し、それらを確実に実行することで、あるべき姿の実現を目指す。



# 3 2030年のあるべき姿

## 2030年のあるべき姿（定量イメージ）

### 重要業績評価指標（KPI） 連結

	当初策定時 (2021年5月)	今回更新 (2024年5月)
項目	2030年度目標	2030年度目標
売上高	1,000億円	1,100億円
営業利益	80億円	80億円
当期純利益	50億円	50億円
ROE	10.0%	10.0%
自己資本	500億円	—
総資産	1,000億円	—
自己資本比率	50.0%	50%程度

### あるべき姿（定量イメージ）更新の考え方

#### ● 売上高1,100億円・営業利益80億円

2030年のあるべき姿に当初掲げた売上高1,000億円は、必要な現業部門の人員を確保したうえで、管理コストの上昇を抑制しつつ、利益を最大化し得る「最適規模」が売上高1,000億円程度との考え方に基づき設定したもののだが、その後の順調な工事受注の推移に加え、物価高や人件費上昇の影響も相まって、新たな「中期経営計画」（2024-2026年度）において、前倒しで「売上高1,000億円」に到達するKPIを設定するに至ったことから、計画の策定にあわせ、2030年度の売上高目標を1,100億円に上方修正した。

なお、前記の「最適規模」との関係では、物価上昇の影響等を考慮すれば、事業量としては最適規模の範囲にあると考えており、同様の理由により、また処遇の改善、教育・研修など人的資本投資の拡充も見据え、利益水準に関しては当初の目標を据え置きとしている。

#### ● ROE10.0%・自己資本比率50%

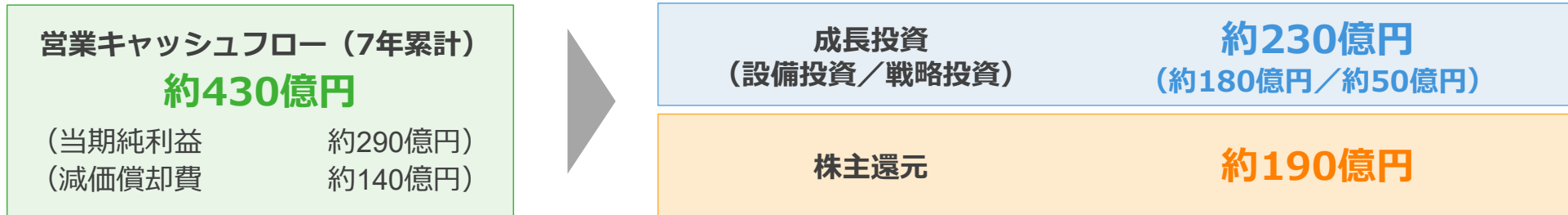
中長期的にエクイティ・スプレッドを確保しながら、早期にROE10%を達成するため、積極的に自己資本のコントロールを行っていく姿勢を堅持。自己資本比率50%は、上場企業として求められる資本収益性、公共事業に従事する建設事業者として求められる財務健全性を高いレベルで追求していくうえで、最善のバランスであると当社が考える水準。

なお、今回の更新にあわせ、BSの指標から「額」を外し「率」による管理に一本化した。

# 3 2030年のあるべき姿

## キャッシュ・フロー配分

### ● キャッシュフローの使途(2024-2030)



### ● 財務健全性に関する考え方

■ **信用格付「BBB+」相当を目安に財務健全性を維持**

- ・ 月商の2倍程度を目安とした手元流動性確保
- ・ DEレシオ0.3以下を目安にマネジメント

- ・ 支出先行の事業モデル（仕入債務支払と売上債権回収の間に時間的ギャップ）を勘案
- ・ 工事の大型化・長期化等による資金計画への影響を注視
- ・ 当座借越契約やコミットメントラインも有効に利用

### ● フリーキャッシュフローの配分に関する考え方

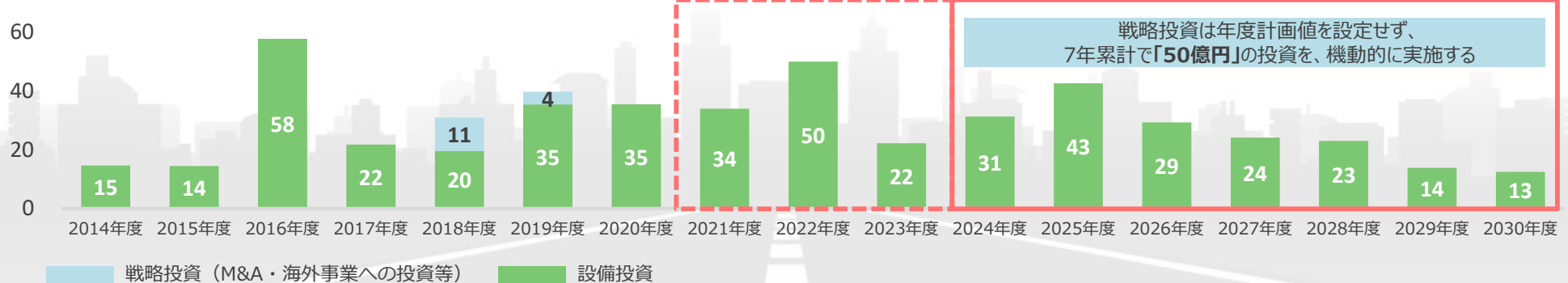
■ **自己資本のコントロール**

ROE10%、自己資本比率50%の指標を見据え、  
 妥当な水準を株主還元配分していく方針

■ **株主還元後のフリーキャッシュフローの使途は、経営判断により以下に配分**

- ・ 更なる株主還元の実施
- ・ 追加投資等（設備投資／戦略投資、人材投資、協力会社支援等）
- ・ 財務体質の強化

### ● 投資額の推移（実績および計画）





## 4 参考情報



### 企業理念

## 豊かな地域社会づくりに貢献する 生活基盤創造企業

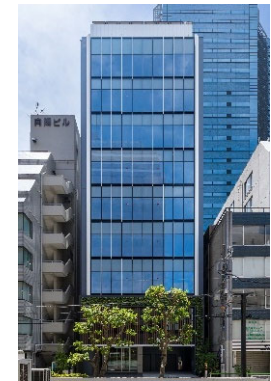
会社名	世紀東急工業株式会社
設立	1950年1月16日
本社所在地	東京都港区芝公園2丁目9番3号
代表者名	取締役社長 平 喜一
資本金	20億円（2024年3月31日現在）
売上高	837億5百万円（2024年3月期）
従業員数	995名（2024年3月31日現在）
株式取引市場	東京証券取引所プライム市場
建設業許可	国土交通大臣許可（特-4）第1962号

# 4 主な事業所・研究所・連結子会社等

営業所等	50ヶ所
合材工場等	51ヶ所
技術研究所	栃木県
試験所	8ヶ所
機材センター	栃木県
研修所 (トレーニングセンター)	栃木県
連結子会社	11社



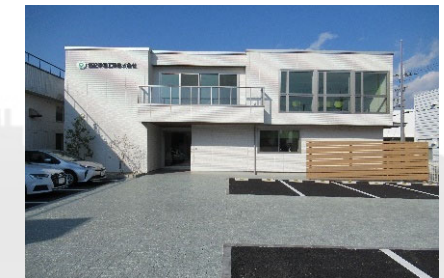
研修所  
(トレーニングセンター)



本社



佐倉合材工場



神戸営業所



**αフラット**

αフラットは、穴埋めや橋梁ジョイント部に生じた段差などを補修する段差修正材で、アスコンおよびコンクリートの上に施工可能です。常温で混合し、コテなどで簡単に施工ができ、また施工後60分程度で硬化し早期の交通開放が可能です。特に舗装との付着力に優れているのが特徴です。



**路面性状測定車**

普通乗用車に搭載した測定ユニットのカメラで路面を撮影、レーザースキャナで路面の縦横断形状を測定することにより、ひび割れ率などを評価します。AIを用いた轍掘れ率算出、ポットホールやラインのかすれの検出も可能です。



**マイブル-eco(一般名称：フォームドアスファルト混合物)**

アスファルトに微小な泡を添加することで、アスファルトと骨材が混合しやすくなります。一般のアスファルトより約30℃低く混合・施工が可能です。供給エリアの拡大、冬期および寒冷地での施工性向上、交通規制時間の短縮、地球環境負荷低減に寄与します。



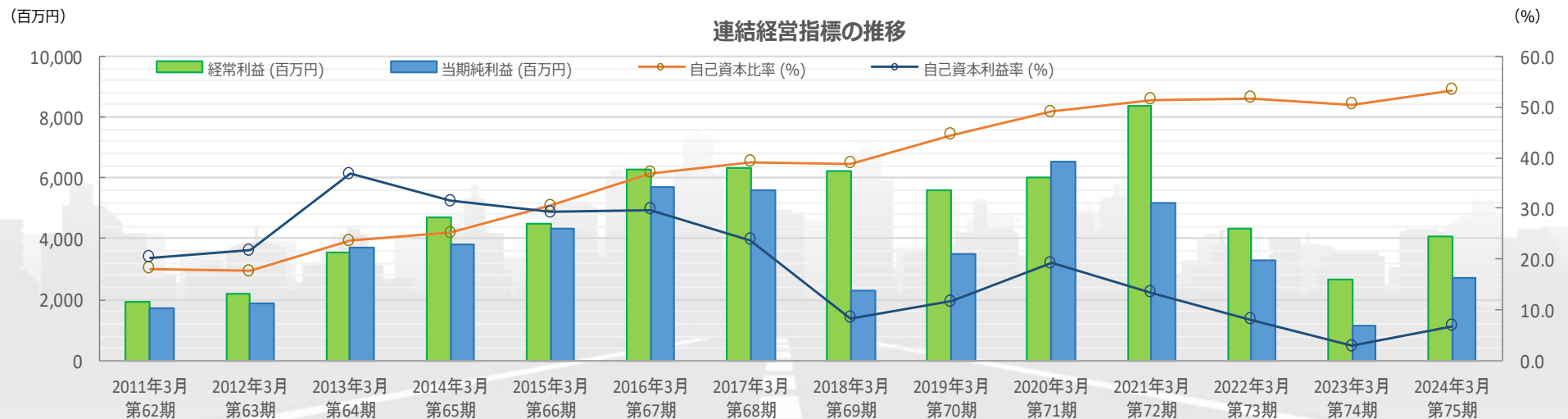
**常温アスファルト混合物「エコミックス」**

エコミックスは、アスファルト塊をリサイクルした再生骨材を50%以上配合した環境にやさしい常温型アスファルト混合物で、一定の作業性を確保しながら高い強度発現を可能としたエコマーク認定商品です。

# 4 連結経営指標等

回次	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期
決算年月	2008年3月	2009年3月	2010年3月	2011年3月	2012年3月	2013年3月	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月
売上高 (百万円)	71,172	62,598	71,589	59,365	61,106	71,091	71,691	63,542	74,634	70,075	81,659	74,036	78,631	90,025	85,132	92,414	88,037
営業利益 (百万円)	822	825	4,085	2,109	2,294	3,731	4,779	4,528	6,291	6,412	6,235	5,564	5,961	8,470	4,418	2,669	4,091
売上高営業利益率 (%)	1.2	1.3	5.7	3.6	3.8	5.2	6.7	7.1	8.4	9.2	7.6	7.5	7.6	9.4	5.2	2.9	4.6
経常利益 (百万円)	493	489	3,705	1,943	2,178	3,551	4,730	4,487	6,261	6,338	6,239	5,584	6,009	8,395	4,358	2,647	4,078
当期純利益 (百万円)	224	326	3,283	1,715	1,886	3,705	3,793	4,365	5,682	5,621	2,274	3,480	6,544	5,180	3,304	1,127	2,740
包括利益 (百万円)	—	—	—	1,705	1,887	3,720	3,794	4,899	4,754	5,527	2,712	3,822	6,243	6,010	3,992	1,049	3,578
純資産額 (百万円)	4,780	5,065	8,349	8,544	8,801	11,344	12,791	17,083	21,231	26,072	28,098	31,543	36,632	40,790	40,497	39,660	40,533
総資産額 (百万円)	49,237	48,069	50,348	47,339	49,597	48,106	50,809	56,079	57,544	66,444	72,192	70,906	74,656	79,409	78,295	78,762	76,042
BPS (円)	△ 36.43	△ 32.07	△ 4.27	8.77	31.50	51.34	316.84	423.19	525.96	645.90	696.09	780.73	909.13	1,010.99	1,082.33	1,088.13	1,111.46
EPS (円)	1.61	2.30	22.48	11.85	10.54	19.36	95.48	108.13	140.78	139.26	56.35	86.16	162.40	128.45	84.81	30.73	75.16
潜在株式調整後 (円)	0.74	0.77	10.72	5.80	7.19	16.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	9.7	10.5	16.6	18.1	17.7	23.6	25.2	30.5	36.9	39.2	38.9	44.5	49.1	51.4	51.7	50.4	53.3
自己資本利益率 (%)	4.8	6.6	49.0	20.3	21.7	36.8	31.4	29.2	29.7	23.8	8.4	11.7	19.2	13.4	8.1	2.8	6.8
株価収益率 (倍)	45.34	13.04	2.58	7.51	6.26	4.24	6.14	4.79	3.35	3.81	12.21	6.84	5.02	7.25	8.80	26.40	25.65
営業活動によるCF (百万円)	496	2,040	6,372	1,217	2,945	4,796	5,433	2,862	6,679	6,949	6,303	4,781	4,461	1,138	4,646	2,380	10,949
投資活動によるCF (百万円)	△ 932	△ 1,184	△ 997	△ 361	△ 130	△ 608	△ 1,407	△ 1,234	△ 1,658	△ 4,896	△ 2,231	△ 1,777	△ 3,808	△ 3,622	△ 3,668	△ 5,028	△ 2,873
財務活動によるCF (百万円)	△ 629	△ 794	△ 1,580	△ 2,525	△ 2,610	△ 4,828	△ 1,551	△ 1,604	△ 1,603	1,815	△ 1,684	△ 2,005	△ 2,919	2,343	△ 2,232	△ 2,022	△ 2,823
現金等の期末残高 (百万円)	819	880	4,675	3,006	3,206	2,566	5,041	5,064	8,482	12,350	14,737	15,735	14,169	14,035	12,814	8,173	13,440
1株当たり配当額 (円)	—	—	—	—	—	—	15	15	17	17	10	27	47	43	30	30	90
配当性向 (%)	—	—	—	—	—	—	15.0	13.9	12.1	12.2	17.7	31.3	28.9	33.5	35.4	97.6	119.7
従業員数 (人)	869	865	860	840	824	797	792	825	863	904	896	907	1,031	1,043	1,098	1,117	1,149
[外、平均臨時雇用者数]	[ 235]	[ 230]	[ 236]	[ 240]	[ 245]	[ 251]	[ 268]	[ 279]	[ 275]	[ 275]	[ 274]	[ 274]	[ 289]	[ 293]	[ 277]	[ 292]	[ 292]

※2014年10月に、5株を1株とする株式併合を実施。2014年3月期以降の「1株当たり純資産額」、「1株当たり純利益金額」、「1株当たり配当額」の数値は、株式併合を反映した数値となっている。



本資料における予想、計画など将来に関する事項は、現時点において入手可能な情報ならびに当社が判断した前提および仮定に基づくものであり、実際の業績は今後の事業環境の変化等、様々な要因により異なる結果となる可能性があります。



# 世紀東急工業株式会社

## お問い合わせ先

管理本部 総務部 総務グループ

TEL 03-6770-4008

FAX 03-6770-4038

URL <https://www.seikitokyu.co.jp/contact>

## エスティとケイ (Seiki Tokyu Kogyo マスコットキャラクター)

2020年1月、創立70周年を記念に当社マスコットキャラクター「エスティ」と「ケイ」が誕生しました。  
全国の工事現場やアスファルトプラントで安全対策、業界のイメージアップ、会社のPR等に努めてまいりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

世紀東急工業キャラクター  
エスティとケイ

